

海禅寺新聞

二〇二三年 秋号



Vol.39

『海禅寺新聞』第39号

おんがら

人と比べず

面白がって

平気に生きればいい

女優 樹木 希林

私たちは時として、自分の地位や力や財産、そして才能などを誇って、思い上がった振る舞いをしてしまうときがあります。またついつい人様と自分のあれこれを比べて、一喜一憂する毎日。そういった無意識の習慣を意識的に止めて、もっと安楽な気持ちで生きようよ、という提案。仏教にも深く通底する考え方です。

季節は秋。少しずつ色づき始めた木の葉や虫の声、涼しい秋風といった秋の気配を感じながら、自己を静かに見つめ、こうした自分の心のクセを一つでも手放していきたいものですね。

合掌



『生きる力 Vol.114』送付と

弘法大師空海さんについて

真言宗智山派で発行しております冊子「生きる力 vol.114」をお届けします。ぜひ一読ください。

特集にもありますが、宗祖弘法大師空海様のご生誕千二百五十を祝う各大事業もそれぞれ無事挙行され、慶祝の年が過ぎ行くこうとしています。私たちと同じ一人の間であつた空海という人はいつたいどんな方であつたのか。様々な語られ方がされていますが、空海さんは9つの顔を持つ、現代でいうマルチクリエイター（複数の分野で自分の技能を駆使して様々な発想を具現化する人）であつたという評価があります。



①僧侶として

当時の日本にはまだ伝わっていなかった最新の仏教「密教」を持ち込み広めました。高野山を開山したほか、京都の東寺を下賜され、日本国を護り祈る中心寺院として確立しました。入滅後は、「お地藏さま」のように「お大師さま」として民間信仰の対象にもなりました。

②詩人として

空海さんは表現豊かな詩歌が挿入された著書や、漢詩を多く残しており、それが高く評価されています。

仏教の心理は論理を超えた部分もあるため、散文で論理的に語るだけではなく、詩歌の感性で表現する必要もあつたのでしょう。

③編集者として

日本初の辞典を誕生させた優秀な編集者でもありました。空海さんは「人々を教え導く根底には文字や文章がある」という考えから、言葉を重視しました。語学の天才でもあり、中国語、サンスクリット語を自在に操つたといえます。その才能をいかし、中国南北朝時代につくられた辞典をもとにした漢字辞典や、サンスクリット語を読み解く梵漢解説書を編纂しました。これらは後の仏教経典研究を飛躍的に進歩させることになりました。

④教育者として

庶民に開かれた日本初の総合大学を創設しました。当時の学校といえば、役人養成機関である大学や、氏族が入る私立学校を指していました。しかし空海さんは身分に関係なく庶民に開かれた仏教的総合大学「綜芸種智院」を創設しました。自分の専門である密教以外の教養を排斥しない空海さんの理想が反映され、仏教の他にも儒教や道教も教えられていたそうです。

⑤書家として

ことわざ「弘法にも筆の誤り」の弘法とは空海さんの事を指しています。それほどに名筆家でした。その証として、嵯峨天皇、橘逸勢とともに日本三筆の一人に数えられています。また達筆だけでなく、相手の状況に合わせて様々な書体を自在に使い分けていました。

⑥芸術家として

密教の伝統として、その神秘的な世界観を広く届けるために、文字では伝えきれない奥深い内容を、曼荼羅を使って表現していました。空海さんは、自らも曼荼羅を描

いていました。また、仏像を彫るなど、芸術的な力やセンスをもち合わせたアーティストとしての顔も見せています。こういった表現力の豊かさが、他の宗教家とは一線を画していると言えるでしょう。

⑦デベロッパ（土地、街の開発事業者）として

寺院の建立で自ら設計にかかわるなど、多くの土木事業を行いました。

中でも故郷である香川県の満濃池の修築は逸話として残っています。巨大な満濃池は、しばしば決壊して被害を出していたために、住民が「故郷の誉れ」と仰ぐ空海さんに堤防修築を依頼しました。空海さんは現地に着くと大きな岩の上に修法の壇を設け、護摩法をもって祈禱しました。また当時ではまだ知られていなかった強度のある設計を提案。それを知った人々が全国から集まり工事に協力。わずか三カ月で修築を完結させたといえます。

知識と技術、そして人徳をいかして成し遂げた治水事業でした。

⑧文筆家として

空海さんは語学堪能なことから通訳としても活躍しましたが、自身も乗船した遣唐使船が中国へ漂着した際には、遣唐大使に代わって現地の観察使へ手紙を書きました。空海一団の存在が不審だと見なされたのです。しかしその文章は整然とした論理が展開されており、韻を踏んだ華麗な文体だったといえます。文章を重んじる中国人もこの書に感銘を受け、長安への入京が認められました。

文字の美しさのみならず、中国の古典を踏まえた教養あふれる文書を書くこともできたのです。

⑨パフォーマー(表現活動家)として

当時、経典は僧侶が都の大きな寺に向いて写経し、それを持ち帰って地元で布教するスタイルが一般的でした。しかし、それでは時間がかかることから、空海さんは経典の写経やその目録を持たせた弟子を全国に派遣して布教するキャンペーンを行い多くの人に密教を広めました。

全国に弟子を派遣した布教キャンペーン。日本全国に弘法大師伝説が今でも残っている一因には、こうした弟子達の活躍があるとも言われています。

いかがでしょうか？こうして列記してみると、いかに人間空海さんという方が、多分野でその力を発揮された方であるかがよくわかると思います。そうして見えてくる人物像は、伝統的な文化も大切にしながらも新しい技術等も柔軟に取り入れ、目的達成のために様々な手段を臨機応変に操る自由なお人柄が浮かび上がります。きつとファンも多かったことでしょうね。

空海さんが日本に広めた真言宗に縁のある私たちも、その存在にあやかり、今の時代を少しでも軽やかに賢く愉快に生きていきたいものです。皆さんの菩提寺として、空海さんの恩恵を諸行事や発行物を通じて発信して参ります。

※参考：Discover Japan

秋彼岸会 中日法要のご案内

恒例の秋彼岸会法要を海禅寺本堂にてお勤めいたします。どうぞお出かけください。(申込不要)

日程：令和5年9月23日(土・祝日)
時間：受付 午前10時〜
法要 午前10時半〜

※お彼岸中日の午前中は、本堂前でお焼香していただけるよう準備をいたします。

※法要終了後にお時間の許す方は、会議室でご歓談していただいております。粗菓粗茶もご準備いたします。

※彼岸会法要の供養塔婆をご希望の方は、19日(火)夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

(供養塔婆料 一基 3000円)

※境内墓地をお持ちの方は、お寺においでにならなくとも供養塔婆を墓前に手向けさせていただけます。ご希望の方は、供養塔婆料を添えてお申し出下さい。

電話：0268-22-2972

Fax：0268-26-114

総本山智積院『集議』列座

すでにご案内の通り、海禅寺住職は京都総本山智積院の要職である、菩提院結衆の一人としてお役目を頂戴しております。

この度、菩提院結衆の更上位にある『集議』(しゅぎ)席に列座(選任されること)することになりました。ここには真言宗智山派の高僧二十名が在任しており、川崎大師平間寺の御貫首や、成田山新勝寺の御貫首方も名を連ねます。今後、諸行事等に出仕させていただく機会も増えるかと存じますが、皆様の海禅寺の益々興隆のため、また宗派および社会のために精進して参る所存です。檀信徒の皆様へ、ここに感謝と共に報告させていただきます。

本堂にエアコン設置

ここ数年、夏の猛暑はとどまるところを知りません。今年も大変に暑い夏でした。海禅寺の本堂はこれまで複数台の扇風機でその暑さをしのいできました。しかしご参拝いただく檀信徒の皆様のご健康を考えると、現状のままでは危険を感じる程の室温となる日も多くなってきました。

そこでこの度思い切って、本堂に業務用の大型エアコン3台を設置いたしました。



これに伴い消費電力も大きくなるため、業務用電源である三相へ変更する工事もいたしました。寺の建物構造上、難しい工事となりましたが、関係業者の努力のお陰で無事設置工事は完了し、この度引き渡しとなりました。これからは、夏は涼しく、冬もこれまでより暖かな本堂でご法事をはじめとした仏事、諸行事を営むことができます。

きます。菩提寺の本堂です。どうぞ御法事などの折りに触れてご活用ください。尚、今回かかった費用の全ては、住職からの寄贈といたします。前述の総本山智積院集議席列座について、檀信徒の皆様、そして海禅寺への御礼と感謝の気持ちとして納めさせていただきます。合掌

第39回 人形供養会



毎年11月の勤労感謝の日に行っている人形供養会を今年も勤修いたします。今年も集まったお人形さんをすべてお飾りした上で、修験道の秘法・柴燈護摩供によって懇ろに供養をお勤めします。合わせて檀信徒の皆さまの、家内安全と心願成就も御祈念いたします。

日程：令和5年11月23日(木・祝日)
時間：「受付」午前9時半〜
「雅楽奉納演奏」午前10時40分〜
「人形供養法要」午前11時〜

告知 NPO法人 新田の風

生老病死を語り合おう

『生まれること、老いること、病気になること、そして死にゆくこと』 この世に生を受けた後、誰もが自分の思うようにならない老・病・死という一大事を背負って日々歩んでいます。

なかなか答えの出ない事だからこそ、まずは語り合うことから始めませんか？

あなたの思い悩むあれこれは、誰かのあれこれと通じ合うかもしれません

場所：海禅寺本堂 会費：500円
日程：令和5年9月17日(日)
時間：午後2時〜4時(開場1時45分)
申込み：不要



発行元 海禅寺